～風だより～
こうのとり

第３号
2022.10.1
越前市エコビレッジ交流センター
（公財）日本鳥類保護連盟福井県支部

部子山に行こう！

日本鳥類保護連盟支部長　林昌尚

台風十四号が日本に接近する中、九月十八日『部子山に行こう』という企画を行いました。

当日、早朝は雲間から時折霧雨が降るような空模様でしたが、八時二十分の集合時間には晴れ間が覗いてきました。集合場所に参加者が集まった時にはほとんど無風状態でしたが、上空の雲はかなり早く流れています。参加者の皆さんと検討した上で、決行が決まりました。

途中、部子山のある池田町の道の駅にトイレ休憩で立ち寄りましたが、部子山方面は完全に真っ白で雨の中のようでした。再度参加者の皆さんと検討しましたが、雨を覚悟で行ってみようという結論になり車を進めました。

林道に入ると、小雨混じりでしたが風はあまり感じません。途中の谷筋の岩場に咲く「ダイモンジソウ」の観察など行いながら標高約１２００付近の展望台に到着しました。この場所は以前ウシやヒツジなどの放牧がおこなわれていた場所です。さすがにこの場所まで来ると周りには立木が無く強風が吹き荒れていました。記念撮影したカメラが三脚ごと倒されてしまうほどでした。

↓

↓池田町で一番高い部子山（１４６４メートル）の山頂付近は完全に雲の中でした。天気が良ければ日本海や白山、遠く木曽の御嶽山辺りまで見渡すことができますが、今回の登頂は断念しました。

それに何よりこの地域にはイヌワシの番の棲息が確認されており、実際に私自身も昨年から３回出会っています。この場所には数年前から風力発電の計画が持ち上がっており大変な危機を感じています。「環境省」の腕章をつけた監視員の方達の姿も何度か見かけていますので、この素晴らしい自然環境（生態系）が保たれることを願っています。私たち県協会としてもこのような問題に今後どの様に関わっていけばよいのか？考えていかなければならないと思っています。

今回参加者の皆さんはイヌワシとの遭遇はかないませんでしたが、展望台付近から雲の下に広がる風景や日本海を見ることができ、一様に楽しまれていたようでした。

（越前市）

越前市坂口地区のコウノトリ情報

令和４年７月28日　エコビレ近くにて

さあ～、コウノトリ何羽いるでしょうか？
「コウノトリが舞い降りる里づくり」を手掛けて20年近く。これだけの数のコウノトリが、たった１泊２日とはいえ、舞い降りる里になりました。
まだまだ課題山積ですが、少しずつ前進していけたらと思います。　（野村）

コウノトリの数【正解】　17羽

コウノトリ情報（パート２）

８月３日、J0138（通称たからくん）が亡くなりました。越前市安養寺町（白山地区）に設置した人工巣塔で、３年連続で子育てに奮闘してくれた個体です。越前市中野町（白山地区）で飼育している「ふっくん」「さっちゃん」の托卵により、2016（平成２８）年誕生し、その年の９月、エコビレッジ交流センター東側の農道から放鳥。その後、豊岡市生まれの J0132 とペアになりました。これからも、まだまだ繁殖に欠かせない存在でした。残念です。死因はまだ判明していません。

前号で、鯖江市の吉川地区の人工巣塔にて、１羽巣立ったことをご報告しましたが、孵化した時には２羽確認できたのです。１羽は、足環装着の際、巣内で死んでいるのが見つかりました。死因は「アスペルギルス肺炎」。成鳥や健康な個体では感染しても発症することはないようですが、弱った個体やヒナでは発症し死亡することがあるそうです。県コウノトリ支援本部の木村獣医師によると、問題は、これが人獣共通感染症で、健康な人間が普通に持っている可能性があるため、人間からコウノトリにうつしてしまう危険性もあるとのこと。「コウノトリに餌や巣材を与える」なんていう行為は決してしないでください。コウノトリはペットではありません。　（野村）

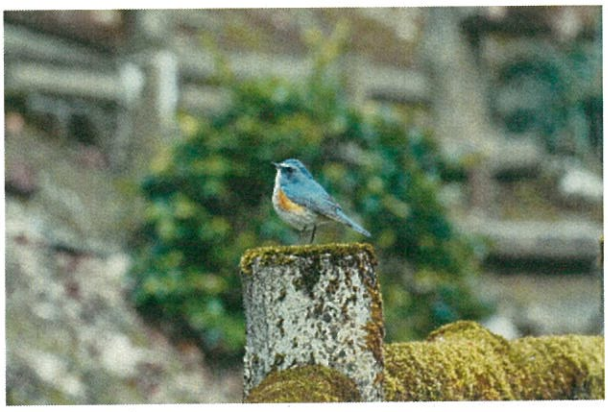
冬の俳句とルリビタキ

日本鳥類保護連盟福井県支部
田中　綾子

とある冬の晴れ間、足羽山でバードウォッチングを楽しんでいると素敵なご婦人に話しかけられた。

ご婦人「鳥を見ていらっしゃるの？」
　私　「はい」
ご婦人「足羽山で見られる冬鳥を入れた冬の俳句を詠みたいのですが、どんな鳥がいいですかねぇ」
　私　「そうですね、今の季節だとツグミやルリビタキはどうですか。ツグミは福井県の鳥ですし、ルリビタキは幸せの青い鳥といわれる綺麗な鳥ですよ」
ご婦人「ツグミとルリビタキですね。教えてくれてありがとう。」

バードウォッチング中、すれ違うだけの人とちょっとした会話をするのは気持ちいいな、と自己満足でその場を離れた。しかし、帰宅後なんとなく気になって季語を調べてみたら、ツグミは秋らしいし、ルリビタキにいたっては夏ではないか！
ルリビタキは冬に低地の公園に降りてきてくれる野鳥で、私は冬にしか会えないものだから冬の俳句にピッタリだと思い込んでいた。このときの会話のおかげで「ルリビタキは夏の季語」という知識が増えたことに感謝です。



秋から冬にかけてはバードウォッチングに最適の季節。初夏に生い茂った木々の葉が落ち野鳥が見つけやすくなる。毎年いつも行く公園で出会えるルリビタキ、今季も会えることを期待して今からワクワクしている。

（鯖江市）

事務局から

ある講演会でのこと。講師曰く、科学的視点だけではいけない。自分の考えや思いを論文にしたり文章にしたりするには国語力が大事だ。また、俳句や短歌はわずかな文字の中に、その時見たものや感じたものが入っていて、昔の環境を知ることにもつながるとのこと、田中さんの文章を拝読し思い出しました。

「ランタンフライ」（シタベニハゴロモ）

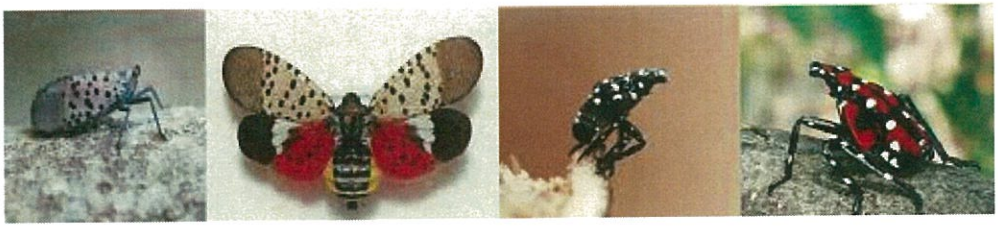
支部の部屋

「あれ？」車に乗ろうと歩いているとタイヤに赤いものが見えます。それは明らかに今まで見た事のない虫。このまま見過ごしてはいけない予感がして写真を撮り、調べると「ランタンフライ」という見つけたらすぐに駆除するよう呼び掛けている虫だと書いてあります。「え～～」

見るからに毒々しく、触るのも怖くて躊躇していると「ブーン」。きっと駆除しなかった自分を悔やむことになるんだろう…と思いながら、小さくなっていく姿を見ていました。

落ち着いてからもう一度細かく調べると、もともとインドや中国などに分布していた虫で、アメリカなどでも問題になったとのこと。2009年に初めて石川県小松市で発見。その後、福井県や他の県へと拡大しているみたいです。繁殖力抜群のこの虫は、木や作物を枯らしてしまうそうです。やはりその場で駆除しないとダメだった…（後悔！）きっとこの虫のように、自分が気づかないうちにたくさんの外来種が入ってきていて、身近な生態系が崩れているんだろうなぁと改めて感じ、地球温暖化を含め色々な環境問題についても考えてしまいました。

卵から孵って成虫までの間に何回も姿を変えるみたいですが、今度は見つけたら駆除したいと思います。本当はこんな虫、何回も見つけられるような環境ではダメなんだろうけど。（田川）



（この写真は、インターネットより拝借しました）

編集後記

6月、東大の学生さんたちと作ったビオトープで、8月20日（土）仁愛大学の学生さんたちと一緒に、「さかぐち　生きもの見つけ隊」という講座を企画しました。ナント！　ガムシ　15匹　ミズカマキリ13匹見つけることができました。耕作放棄地のままだったら、こんなに水生昆虫が集まることはなかったでしょう。

あんなに暑かったのに、朝晩涼しくなり、2，3日前から、風に乗って金木犀の優しい香りが漂ってくるようになりました。秋ですね。夏の疲れは残っていませんか？お近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。秋の里山の風景を見ながら、コウノトリ談議に花を咲かせましょう。　（野村）

越前市エコビレッジ交流センター　【住所】　福井県越前市湯谷町25-25-2
TEL/fax　0778-28-1123　E-mail　info@ecovilg.jp
URL　http://www.ecovilg.jp/